

# 2020年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」

## 事業実施報告書

- I スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び
- II マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成
- III スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築
- IV 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化の理解、多様性を尊重する態度の育成
- V スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成

道府県・政令市名【北九州市】

学校名【北九州市立 曾根中学校】

1 実践テーマ	I・II・III・IV・V（複数選択可）
2 実施対象者 (学年・人数)	北九州市立曾根中学校 全校生徒 612名
3 展開の形式	<p>(1) 学校における活動</p> <p>① 教科名（保健体育科、道徳科）</p> <p>② 行事名（ ）</p> <p>③ その他（ ）</p> <p>(2) 地域における活動</p> <p>① イベント名（ ）</p> <p>② その他（ ）</p>
4 目標 (ねらい)	<p>○ 昨年度までの取組を振り返るとともに、生徒のオリンピック・パラリンピックへの関心をさらに高め、スポーツの価値や効果の再認識を図るとともに、規範意識の涵養、国際・異文化への理解等を深める。</p> <p>○ シットイングバレーボールの映像を見たり、体験したりする活動やオリンピック・パラリンピックの偉人を調べる活動を通して、オリンピック・パラリンピックスポーツの魅力に触れさせるとともに、多様性を尊重し、共生・共助社会の実現をしていこうとする心情を養う。</p>
5 取組内容	<p><b>1 パラリンピックへの理解を深めるためのシットイングバレーボール体験学習の設定</b></p> <p>昨年度と同様に第2学年のバレーボールの学習にシットイングバレーボールの体験学習を組み込み、単元を構成した。</p> <p>単元の導入時に「I'm Possible」やスポーツ庁「オリンピック・パラリンピックに関する指導参考映像資料」を活用し、オリンピック・パラリンピックについての意義や歴史、シットイングバレーボールのルールなど知的な理解を深めた後、シットイングバレーボール体験学習を設定した。生徒たちは当初シットイングバレーボールに難しさを感じていたが、予備的な活動やゲーム体験を積むにつれて、戦略を考えるまでになり、夢中になって活動する姿が見られた。また、「失ったものを数えるな、できることを最大限に生かせ」という言葉は生徒がアスリートの気持ちに触れる貴重な一節となった。</p> <p>&lt;授業の様子&gt;</p> <div style="display: flex; flex-wrap: wrap;"> <div style="width: 33%; text-align: center;">  <p>ルール等の確認</p> </div> <div style="width: 33%; text-align: center;">  <p>基本的な動きを学ぶ</p> </div> <div style="width: 33%; text-align: center;">  <p>つなぐ楽しさを学ぶ</p> </div> <div style="width: 33%; text-align: center;">  <p>ゲームの様子①</p> </div> <div style="width: 33%; text-align: center;">  <p>ゲームの様子②</p> </div> <div style="width: 33%; text-align: center;">  <p>ゲームの様子③</p> </div> </div>

## 2 オリピック・パラリンピックへの興味・関心を高めるための「オリパラコーナー」の設置

校内にオリパラコーナーを設置し、オリピック・パラリンピックに関する情報や生徒の作品を掲示した。

具体的には、保健体育科の授業においてタブレットを活用して、オリピック・パラリンピックに関する情報を集め、クイズを作成する学習活動を設定した。A4一枚にまとめる活動を通して、スポーツに対する興味・関心を向上させることができた。

<調べ学習を行っている様子>



タブレットを活用して調べる様子



オリパラコーナーを見学する様子



オリパラコーナーでの掲示

## 3 共生社会の実現のために、自分たちができることについて考える学習活動の設定

道徳科の時間において、車椅子テニスで活躍する国枝慎吾さんを取り上げて、強い信念をもって困難に立ち向かう大切さについて学習した。国枝さんの生き様を通して、障がい者理解が深まった。また、友人と意見交流する中で、障がいの有無にかかわらず、女性も男性も、高齢者も若者も、すべての人がお互いの人権や尊厳を大切に、支え合い、誰もが生き生きとした人生を享受することのできる共生社会を実現するために自分たちができることについて多面的・多角的な視点で議論することができた。

<授業の様子>



国枝選手について学ぶ



友人との意見交換



## 6 主な成果

### 1 パラリンピックへの理解を深めるためのシッティングバレーボール体験学習の設定について

学習前はパラリンピックのことを知っている生徒は少なかったが、シッティングバレーボール体験学習を通して、パラリンピックへの興味・関心をもつ生徒が多くなった。「またやってみたい」という声や「思ったより楽しい」という声が多く聞かれた。一方で、実際にゲームをすると映像で見るとはうまくいかない場面が多く、生徒は、パラリンピアンの高さの技能の高さと志の高さを肌で感じることができたと思う。

【生徒の感想】

- ・実際にやってみると、映像の時の様には上手くできずパラスポーツの難しさを感じるとともにオリンピックの技術の高さに感心した。
- ・座った状態でボールをつなぐのはとても難しかった。ボールを高く上げたり座り方を工夫することで、上手いくことがわかった。
- ・シッティングバレーボールを体験してみて、パラリンピック競技に興味が増えた。他のパラスポーツもやってみたい。
- ・シッティングバレーボールを体験して、何事もまずやってみようという気持ちになった。最初からあきらめていたら何も成し遂げられないと思った。

### 2 オリピック・パラリンピックへの興味・関心を高めるための「オリパラコーナー」の設置について

オリパラコーナーを設け、JSPO（公益財団法人 日本スポーツ協会）から毎月発行されているスポーツニュース新聞や認知度の低いオリパラクイズ、昨年度作成した「オリピック・パラリンピックの偉人」などオリピック・パラリンピックにまつわる全般的な情報を掲示することで、見学者の興味・関心を高めることができた。また、生徒から「初めて知ったこともありました。」「家に帰って調べました。」といった声が上がっておりオリピック・パラリンピックに対する理解を深め、興味・関心の高まりにつながったという実感を得ることができた。

	<p><b>3 多面的・多角的な視点から共生社会の実現のために自分たちができることについて学ぶ学習について</b></p> <p>車椅子のプロテニスプレイヤーとして、世界ランク1位の実力で活躍する国枝慎吾選手を知っている生徒は多かった。しかし、自身のハンディギャップを乗り越えようと、想像を絶するほどの苦労や努力を重ねて、現在の輝きを得たことはあまり知らない様子であった。学習を進めていく中で、生徒から「世界1位でもこんなに努力していたんだ」「この人すごい」といった声があがり、意欲的に学習に取り組んだ。また、学校にも様々な場所でユニバーサルデザインの考えに基づき、バリアフリーが実現されていることを知り、学習後は多様性を尊重し、共生社会を実現していこうとする心情を養うことができることにつながった。</p> <p><b>【生徒の振り返り】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・簡単に諦めないようにしたいと思った。</li> <li>・「できないことを数えるのではなく、できることを考える。」の言葉が響いた。私も国枝選手のように前向きに生きていこうと思った。</li> <li>・今回の授業を通して、バリアフリーの視点をもって生活していきたいと思う。</li> <li>・障がいの有無、人種、性別、国籍など関係なくみんな同じ人間。お互いの個性を尊重し合って生活を送りたいと思う。</li> </ul>
<p>7 実践において工夫した点 (事業の特色)</p>	<p>(1) パラリンピック教育教材の活用</p> <p>指導者としてパラリンピックについて学ばせたいと思っていなくても、教材準備に時間を要しうまくいかないことが課題となっていた。その点、「I'm Possible」は教材としてとても整理され扱いやすかった。特に、本実践では、オリンピック・パラリンピックの歴史や意義を学ぶ場面や、シッティングバレーボール体験の際に動画を視聴して動き方やルールを確認する場面では、とても有効な教材であった。今後は道徳科や総合的な学習の時間など教科横断的に、継続して活用していきたい。</p> <p>(2) パラリンピックスポーツの教材化</p> <p>パラリンピックスポーツは運動内容という点で価値ある教材であることはわかっていたものの、どう年間指導計画に組み込み、教材化できるかが課題となっていた。その点、シッティングバレーボールはバレーボールとの組み合わせ単元として扱いやすく、持続可能な教材であることが分かった。</p>
<p>8 主な課題等</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 活動を充実させていくためには、教員間でオリンピック・パラリンピック教育について理解を深め、協力体制を整え、継続的に行う必要がある。</li> <li>○ オリンピック・パラリンピック教育を保健体育科や道徳科に限らず、他の教科・領域にどのように位置づけていくかについて考え、計画的に実践していく必要がある。</li> <li>○ 来年度もコロナ禍で活動に制限があることが予想されるが、工夫を凝らし、学校だけでなく、保護者、地域と連携を図り取組の幅を広げ、オリンピック・パラリンピック教育を推進していく必要があると考える。</li> </ul>
<p>9 来年度以降の実施予定</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 今年度コロナ禍にあって、予定されている東京オリンピック・パラリンピックの開催の可能性が100%でない状況下の中でいかに生徒のモチベーションを保ち、向上させていくかについては、今までにない発想や取組が必要となる。</li> <li>○ 2020年東京オリンピック・パラリンピック開催に向けて、今まで以上に興味・関心を高めることが不可欠である。さらに開催できたという事実だけでなく、ここまで努力してきた過程等に目を向けさせることで開催を自らのことと捉え、様々な角度から学び取る生徒を育成するとともに、この取組がレガシーとして継続できるようにする。</li> </ul> <p><b>【具体策】</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>① オリパラコンクール(管根中学校独自の取組)を実施する。</li> <li>② 夏休みの課題として東京2020で感動した・心に残った事を振り返らせ、パワーポイントを用いて文化発表会の際にパブリックビューイングを行う。</li> <li>③ オリンピック・パラリンピックの競技に関連した選手やスタッフの方々を招いて講演活動や体験活動を行う。</li> <li>④ 放送部との連携を図り、給食時の放送などで情報発信をする。</li> <li>⑤ 学校HP等を活用し、学校全体の取組をアピールする。特に、無観客開催となった場合は、HPのトップページに応援メッセージを載せる。</li> </ol>